

アジアのフィールドで 未来を拓く経営人材を育む

AIBS 学会長 池島 政広

2007年8月にAIBS学会が設立されてから11年目を迎えることになりました。本学会は、発展著しいアジアに焦点を当て、ここでのビジネスを国際経営戦略的な視点に立って研究し、さらにはこのビジネスに関われる有為な人材の育成に取り組むものであります。この活動を産学公連携して理論的・実践的に推進してまいりました。その大きな特徴は、本学会メンバーがアジアの現場に出かけ、その地の経済状況や課題などのマクロな動きをよく把握されている方々および実際に企業を牽引しているリーダーに生の事例を提供してもらっていることでもあります。そして実際の企業の現場を訪れて、先方の方々との議論を重ねながら親交を深めております。歴史や文化、商習慣などが異なる地で、顧客ニーズにきめ細かく応える商品・サービスの提供、技術移転、現地パートナーとの関連、従業員の人事労務面など、様々な問題に知恵を絞って対処している姿を拝見し、多くの気づきを得られていることと思います。

2月末には、イノベーションの拠点として注目度が高まる中国深圳で、独自の技術で工夫を凝らす旭硝子と沖電気を訪問してまいりました。そして急成長するグローバル企業であるファーウェイでは、ICT領域での莫大な研究開発投資、それを上手く事業化していくイノベーションの推進体制に驚愕すると共に、今後の中国やグローバル経済への影響、さらには日本企業との関連が気になりました。今年も、ホーチミン、バンコク、上海、釜山への訪問を予定しており、アジアのフィールドでの学会活動を通じて、新たなアジア知を習得され、今後のビジネスの研究や実践的な活動に活かされることを願っております。

このアジアのフィールドで、未来を拓く人づくり、とりわけ経済を牽引する企業の経営人材を育むことが本学会の大きな役割になってまいりました。昨年、英国のEU離脱表明、今年に入り、米国ではトランプ政権の樹立などにより、今後の世界の情勢の不透明感が増しております。このような時こそ、個々の企業が各々のアイデンティティを明確にして、提供する商品・サービスを通じて豊かな未来社会を切り拓いていく必要があります。この先頭に立つリーダーの醸成が急務になっております。このような経営人材の大事な要件は二つ挙げられると思います。第一に、世の中の動きに“鋭敏な感性”を持つことです。未来の社会の動向を洞察し、その中で、自らの企業はどのような役割を果たすことが出来るか考え抜く力が必要となるでしょう。この感性を磨いていくには、歴史や国際関係などを学び、技術の大きな流れ、消費の背景となる諸々の価値観などを知ることです。今、企業を運営していく上で大きなビジネスチャンスとなり得るアジアでのフィールドに出て、この感性を高めていかねばなりません。第二に、明快な信念を持って“ぶれないこと”であります。高い志の下に、事業構想を抱き、それを実行に移すという固い決意を持つことでもあります。これがぶれていては部下や関係者はついてきません。もちろん、頑固という意味ではなく、掲げた目標達成に向けて、その手段は柔軟的に選択されることは言うまでもありません。

以上のような要件を持った経営人材の育成に一層力を入れていきたいと考えております。未来を拓く新たな商品・サービス、ビジネスモデルの開発などのイノベーションは、ダイバーシティに富んだアジアのフィールドで急速に生まれてくる可能性が高まりました。本学会の役割は益々大きくなってまいりましたので、会員の皆様と一緒に盛上げてまいりたいと思います。ご協力、ご助言のほど、どうぞよろしくお願いいたします。